

Tudo bem? ブラジルより

学校教育課 島内三都子

★帰国が見えてきました。2日前にクリチバに戻り、残された活動のための準備を進めています。その活動とは、①パラナ州教育局における「豊橋市の外国人児童生徒教育の発表」と、②州の学校での「6年生の図形の授業」の2つです。翻訳も通訳も必要であるため、準備には日本で要する以上の時間がかかっています。特に授業に関しては、「見てわかる」を増やそうと考えながら、教材づくりをしています。

少しでも日本とブラジルをつなぐ活動になると信じて、最後の務めを果たしたい！そう思っています。



日本がつなぐ『帰国者の会』を実施しました パラナヴァイにて



パラナヴァイ滞在中の2週目に、日本から帰国した子どもとその家族が集まる『帰国者の会』を実施しました。すべての学校を訪問し終えてなかったことや実施日の設定に問題があったこともあって、参加者がとても少なかったことが残念でした。

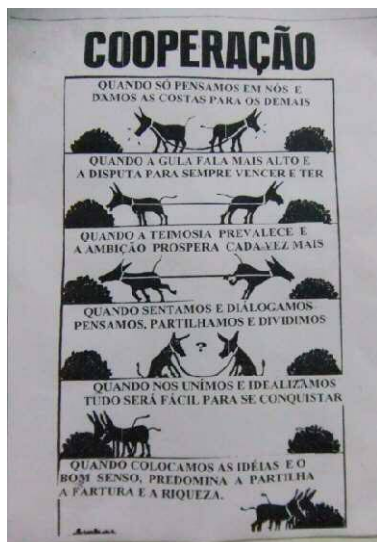
しかしながら、参加のお母さんたちの情報交換はすさまじく、日本での生活から帰国後の苦勞、そして今の生活の様子と話が盛り上がっていました。きっと不安や気苦勞を抱えてこの会にやってきたらうから、人数の問題ではないと会の意義を

思いました。14年間豊橋に住んでいたという家族がいて、学校はブラジル人学校だったものの、「豊橋」という響きが懐かしい懐かしいとうれしそうでした。以下は、そのお母さんの言葉です。

●ブラジルに戻ってからの生活は苦しく、日本では子どもに買ってあげられたものがまんさせ、旅行もできない。そういう状況を子どもに理解させるのが難しかった。出かせぎから戻ったらよいことはなかった。しかし、今はししゅう屋を開き収入を得ている。子どものことを考えず、お金のことばかりを考えて、日本に行くのはよくない。



ゆっくりとかつ力強く語ってくれたお母さんの最後の言葉にはとても重みがありました。



こんなのどうですか??

こんなポスターを先生たちが集う部屋で見つけました。言葉の意味はサッパリですが、何が言いたいのかは察しがつきます。いいじゃん! いただきだあ!! さっそくカメラに収めました。

同じ方向を向いてみんなで協力していこう。そうすれば、お互いのやりたいことを尊重できるばかりでなく、子どものために生まれる力は2倍以上になる。～こんなふうに思い直す機会をだいたいしたいとポスターを眺めながら思いを膨らめた私です。